

日本世代間交流学会(JSIS)

ニューズレター

日本世代間交流学会 年1回発行

2011/03/31

No.1 (創刊号)

挨拶

日本世代間交流学会 会長 草野 篤子 (白梅学園大学)



日本世代間交流学会 (Japan Society for Intergenerational Studies)が、2010年6月に発足しました。日本世代間交流学会の目的は、学問の領域を超えて、あらゆる世代を取り巻く問題に関心や係わりのある研究者、実践者、市民、行政、企業が集い、共に研究し、提言をし、実践してゆくなかで、すべての世代の健康と人間発達に寄与する総合科学を確立し、諸世代のためのよりよい家族や地域社会を実現することです。あらゆる世代が心身ともに健全に育つことが出来る家庭や地域を作り出すことは社会全体に

課せられた責務です。

学問としての「世代間交流学」は、実践的、統合的な学問であり、自然科学、社会科学、人文科学が、世代間交流学を支えています。「世代間交流学」は、これまでの細分化された諸科学とは、一線を画しています。物事を諸要素に分離・分解・分析を加えたのちには、諸要素を再統合して全体像を俯瞰することが、学問には求められています。したがって、世代に関係する様々な分野を結び付け、また橋渡しをするとともに、実践現場における経験知を、研究者との協働・連携を持って、学問レベルにまで統合していくことが、本学会の重要な課題です。

世代間交流学に隣接する分野としては、社会福祉学、社会学、社会心理学などの社会

系分野、社会教育学、歴史学、生涯学習などの教育・学習分野、人間発達学、生涯発達心理学、子ども学、老年学などの発達系分野、公衆衛生学、医学、環境学、都市計画学、建築学などの自然科学系分野などがあり、これらの分野とは学際的な関係を持っています。従って、本学会が対象とする分野は、広く深いといえるでしょう。

日本だけでなく世界各国においても、子ども・青年・中年世代・高齢者を取り巻く生活環境は異なっていますが、あらゆる世代の健全な人間発達とその地域作りは共通の課題であり、各国の研究者や実践者が連携して研究や実践の上で協力し合うことが重要です。そういった機会を、日本世代間交流学会が提供していければ幸甚です。

世代に関係する様々な分野を結び付け、また橋渡しをするとともに、実践現場における経験知を、研究者との協働・連携を持って、学問レベルにまで統合していくことが、本学会の重要な課題です。

日本世代間交流学会第1回全国大会が、無事に終了しました。

日本世代間交流学会第1回全国大会が、2010年8月7日(土)に、兵庫県・芦屋大学で開催されました。参加者は、学会員をはじめ、多くの市民会員、学生会員、地域の皆様、子どもたち、総勢約100名であり、大変な盛り上がりの中、無事に終えることができました。厳しい暑さの中、参加者の皆様、そして大

会の実行委員会の皆様、誠に有難うございました。心より、御礼申し上げます。また、大会の開催にあたり、文部科学省、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、芦屋市教育委員会、株式会社日本経済新聞社より後援、多くの企業様から協賛を頂きました。記して、感謝の意を表します。

主な内容は以下の通りです。



写真1 開会式での人形芝居えびす座による「創作えびす舞」

1. 開会式 (9:30~10:30)

①祝舞 創作「えびす舞」、出演：人形芝居えびす座(代表 頼田稔 戎座人形芝居館 館長)

②祝辞：宮野良一(芦屋大学学長)、山中健(芦屋市長)、藤原周三(芦屋市教育委員長)、徳田直彦(芦屋市議会議長)

③開会宣言：草野篤子(日本世代間交流学会会長)

2. パネル展示 (11:30~15:30)

①一日だけの「人形劇の図書館」コレクション展、日本と世界の人形劇の世界 ポスターから浮世絵まで：湯見英明(人形劇の図書館館長)

②湯沢雍彦写真展、素顔で見る世界の家族 -世代間交流の原点-：湯沢雍彦(お茶の水女子大学名誉教授)

3. シンポジウム (10:30~12:00)

テーマ：地域再生と世代間交流

シンポジスト：板倉弘政(NHK報道局)、草野篤子(白梅学園大学)、市川禮子(社会福祉法人きらく苑)、田村学(文部科学省)、湯沢雍彦(お茶の水女子大学名誉教授)。司会：金田利子(同朋大学)

4. ラウンドテーブル (12:40~15:20)

テーマ：世代間交流と子どもの環境

話題提供者：明尾圭造(芦屋市立美術博物館)、栗山昭子(芦屋大学)、石丸信明(ARX KOBE)、杉啓以子(社会福祉法人江東園)、藤原佳典(東京都健康長寿医療センター)、内田勇人(兵庫県立大学)、豊重哲郎(鹿屋市柳谷自治会公民館)。司会：山田和廣(芦屋市教育委員会)

5. ジェネレーションズ・フェスタ (12:40~16:20)

①子どもミュージカル、出演者：1・2 STEP KODOMO MUSICAL(主宰：河原由美子)

②街頭紙芝居、出演者：ちゃか丸

③狂言あそび、出演者：わらい袋(石田洋子、大崎省子)

④ドラムサークル、出演者：吉津晶子 with ぼむ・るーじゅ

6. 研究発表1 (12:40~16:20)

座長：斎藤嘉孝(西部文理大学)

①「世代間交流「学」の創造にむけて-理論・実践の統合-」、草野篤子(白梅学園大学)、金田利子(同朋大学)、藤原佳典(東京都健康長寿医療センター)、間野百合子(都留文科大学他・非)

②「LD傾向のある子どもへの教育的支援としての世代間交流」、栗山昭子(芦屋大学)、大盛幸子(芦屋女子短期大学)、村田倫(芦屋大学大学院修士課程)

③「輪廻転生に関する一考察」、岡本聡(中部大学)

④「赤ちゃん人形を介した世代間交流の展望」、塚本美由紀(芦屋大学)

⑤「土橋小学校の世代間交流の現在-コミュニティ・スクールからの取り組み-」、小笹奨(川崎市立土橋小学校)

⑥「大学における世代間交流と生涯学習-白梅学園大学の試みを事例として-」、井上恵子(白梅学園大学)

⑦「異世代との交流経験とその後のライフコースにおけるソーシャルスキル-大学生調査からみる実践的検討-」、

斎藤嘉孝(西部文理大学)

7. 研究発表2 (12:40~16:20)

座長：福島富士子(国立保健医療科学院)

①「発達障害の教育支援において伝承的文化の活用性の考察」、中川祐志(芦屋大学)

②「大学生が世代間交流で得たことと今後の課題-アンケート調査から見えるもの-」、越納美和、田中克恵、伊藤友香(金城大学)

③「伝承遊びに関する高齢者の意識—小学校における指導経験者を対象に—」、溝邊和成、岡村明徳（兵庫教育大学）

④「精神障害がある地域住民のコミュニティにおける役割に関する考察」、山田美智子（社会福祉法人 豊海会）

⑤「共食による世代間交流は子どもの生活に影響をあたえるか?」、山本玲子（尚絅学院大学）

⑥「保育園での幼児と高齢者の交流から地域世代間交流への可能性—中間世代の

役割—」、主藤久枝（白梅学園大学）、金田利子（同朋大学）、草野篤子（白梅学園大学）

⑦「まちと人に橋を架ける—コミュニティカフェふりっじの実践から—」、松田妙子（NPO法人せたがや子育てネット）、福島富士子（国立保健医療科学院）

⑧「世代間交流プログラムとしての“乳児家庭全戸訪問事業（こんには赤ちゃん事業）”の活用」、福島富士子（国立保健医療科学院）、林友紗（慶応義塾大学）、杉田由香里（国立保健医療科学院）

⑨「子どもと高齢者の交流効果—地域型ネットワークにおける世代間交流—」、山田和廣（芦屋市教育委員会）

8. 実践発表（12：40～16：20）

座長 片岡正光（兵庫県立嬉野台生涯教育センター）

①「つむぎ直そう時代のきずな『学校内・フリースペースにおける世代間交流・絆づくりの臨床教育的考察』」、鈴木百合子（百合学院）

②「障がい者福祉作業所 共働事業所『かすみ荘』での実践報告—障がいがある人もない人も共に—」、林真理子（協働事業所「かすみ荘」）

③「障害者と自立—障害者施設の取り組みから—」、小島純子（NPO法人ウェルフェア中ノ島・自立支援カレッジチャレンズ）

④「核家族化によって失われるもの—直葬なるものについて—（僧侶の立場から一言）」、古田玄修（臨濟宗東福寺派僧侶）

⑤「『人を育てる唄』としてのわらべ唄—わらべ唄は子育ての知恵—」、平林智子（滋賀わらべの会）

⑥「お腹の赤ちゃん—お年よりまで楽しめる音楽で音楽と愛あふれる街づくり—」、澤孝子（WITH）

⑦「兵庫県立嬉野台生涯教育センターにおける大学等との連携における世代間交流プログラムの開発の取り組み」、片岡正光（兵庫県立嬉野台生涯教育センター）

9. ポスター発表（12：40～15：40）

座長 安永正史氏（東京都健康長寿医療センター研究所）

①「ドラムサークルでつなぐコミュニティ—ドラムサークルにおける2つの事例からの考察—」、吉津晶子（熊本学園大学）

②「世代間交流における実践者・研究者の意図的支援—日本世代間交流協会ワークショップ参加者による意見—」、糸井和佳（横浜市立大学医学部看護学科）

③「世代間交流活動に見られる保護者の意識—小学校における活動を事例に—」、岡村明徳（兵庫教育大学大学院生）・溝邊和成（兵庫教育大学大学院）

④「我が国における地域の世代間交流活動の効果に関する文献検討」、杉田由香里、福島富士子（国立保健医療科学院）

⑤「小学校における世代間交流の試み—教育支援ボランティアプログラム—」、内田勇人、西垣利男（兵庫県立大学）、藤原佳典、新開省二（東京都健康長寿医療センター研究所）、山口幸一、作田はるみ（兵庫県立大学大学院）

⑥「オーストラリアにおける子どもと高齢者の福祉」、栗山直子（追手門学院大学）

⑦「世代間交流プログラム“REPRINTS”における交流による児童の高齢者イメージの変容」、安永正史、藤原佳典、大場宏美、西真理子、矢嶋さとる、小宇佐陽子、佐久間尚子、深谷太郎、吉田裕人、村山陽、新開省二（東京都健康長寿医療センター研究所）、渡辺直紀（明治安田生命研究所）、李相命（大分大学）、内田勇人（兵庫県立大学）

10. 懇親会

芦屋大学福山記念館において、暮れなずむ大阪湾を一望しつつ、70名以上の会員が集った。宝塚市元市長 正司泰一郎氏の乾杯のご発声により懇親の輪が広まっていった。本大会の開催について韓国の学会に小机信行先生のご紹介をいただき、11名の入会者を代表して Seowon University Dept. of Food Service Industry Prof. Suk-hyun Choi.氏が出席され、国際的な有意義な会となった。

●運営委員・大会メンバー（50音順）

足立美鈴（芦屋市立潮見中学校教育友会）、池田祥子（日本世代間交流協会）、井上容子（芦屋市立潮見中学校教育友会）、石井真理、石田規矩子（戎座人形芝居館）、植田英三郎（あしや市民活動センター）、宇佐見裕子（芦屋市教育委員会）、内田勇人（兵庫県立大学）、大崎省子（人形劇場）、金木友子（芦屋市立打出小学校PTA）、河原由美子（子どもミュージカル one-two Step）、栗山昭子（芦屋大学）、栗山直子（追手門学院大学）、車川幸子（神戸市六甲道児童館）、小池晶子（ぼむ・るーじゅ）、小山孝子（自分デザイン工房）、作田はるみ（兵庫県立大学）、澤田洋子（奈良女子大学大学院）、武地秀実（戎座人形芝居館）、多田初美（芦屋市立浜風小学校PTA）、田中仙子（芦屋市PTA協議会事務局）、塚本美由紀（芦屋大学）、土小加詠一（国際紙芝居協会）、中川祐志（芦屋大学大学院生）、長瀬修子（近畿医療福祉大学）、並川恭子（東村山市民館）、仁平章子（四條畷学園短期大学）、野口明子（ぼむ・るーじゅ）、東根裕子（大阪青山大学）、藤浦美樹（芦屋市立浜風小学校PTA）、船曳純子（芦屋市教育委員会）、松田恵司（戎座人形芝居館）、松本朋子（芦屋市PTA協議会）、溝邊和成（兵庫教育大学大学院）、山田和廣（芦屋市教育委員会）、吉田朋子（戎座人形芝居館）、吉津晶子（熊本学園大学）、頼田稔（戎座人形芝居館）

●協賛企業（順不同）

ANCAR HOUSING, Inc / Air PROJECT / CROWN STAR MUSICAL COMPANY / P f i z e r / ARX KOBE / 伊勢長 帝国ホテル支店 / 株式会社 原田商店 / すし寅 / (有) 芦屋昆布 / くりやま内科 / 第一三共株式会社



写真2 ドラムサークル（吉津晶子 with ぼむ・るーじゅ）

日本世代間交流学会第1回全国大会を終えて

第1回大会長：栗山 昭子（芦屋大学）



第1回大会を行うにあたって、関西を開催地にしていたいただき光

栄に思いました。首都と違い地方発信型の大会が可能ではないかと準備委員の先生方と話し合いました。今、地域文化の時代と言われます。文明が普遍的な豊かさを目指すものとするならば、文化とは地域性を特徴とする精神的所産といえましょう。第1回大会を企画するなかで、準備委員が目指したものは、地域に根

づく文化の掘り起こしであり、世代をつなぐ伝承の再評価だったといえると思います。第1回大会開催を祝ってくださった「創作えびす舞」をはじめ、ボランティアでフェスタに参加してくださった皆さんは「汝の足もとを掘れ、そこに泉あり」を実践なさっている方々だと思いました。我が国には世代間交流で継承すべき伝統工芸技術が沢山あります。これらの技術を次世代に残すために日本世代間交流学会が後ろ盾になる日が必ずくると信じております。最後に一つエピソードを。心齋橋の老舗の呉服屋さんの話です。

半世紀以上務めたある番頭さんが大震災直後から顧客の見舞いに東奔西走し、ショックのために脳卒中で寝たきりになりました。お元気なうちは不景気で仕事がなくなると職人さんにご自分の限られた給料から毎月仕送りをして技術が途絶えるのを防いでいらしたということです。亡くなる前の言葉は「顧客の着物のメンテを怠るな」つまり売るよりも保存重視でした。このような志の人に対しても「日本世代間交流学会」がサポートできる日がいつかきますように念じております。

日本世代間交流学会 第2回全国大会

「世代間の交流と伝承一個から家族そして地域へ」（仮）

2011年（平成23年）10月1日（土）に国立保健医療科学院で、開催されます。

日本世代間交流学会第2回全国大会が、2011年（平成23年）10月1日（土）に国立保健医療科学院（大会長：国立保健医療科学院公衆衛生看護部ケアシステム開発室・福島富士子室長）において開催されます。ふるって、ご参加ください。皆様のご参集を心よりお待ちしております。大会の詳細につきましては、本学会ホームページに随時掲載していく予定です。どうぞ、よろしく願い申し上げます。

日時：2011年（平成23年）10月1日（土）、9:00～17:30（受付開始9:00）

場所：国立保健医療科学院（大会長：国立保健医療科学院公衆衛生看護部ケアシステム開発室・福島富士子室長）

住所 〒351-0197 埼玉県和光市南2丁目3-6、電話 048-458-6236（福島研究室）

交通 東武東上線・東京メトロ（有楽町線・副都心線）「和光市」駅 下車（徒歩約25分）

学会入会のご案内

会員の種別と入会手続き

【会員の種別】

1. 正会員 会の目的及び趣旨に賛同し、本会の事業に積極的に参加する者。役員選挙権・被選挙権をもつ。
2. 学生会員 会の目的及び趣旨に賛同し、本会の事業に積極的に参加する大学生・大学院生。役員選挙権・被選挙権をもつ。
3. 市民会員 本会の目的及び趣旨に賛同し、本会の事業に積極的に参加する市民。役員選挙権・被選挙権をもたない。
4. 子ども会員 本会の目的及び趣旨に賛同し、本会の事業に積極的に参加する子ども(18歳以下)。役員選挙権・被選挙権をもたない。
5. 賛助会員 本会の目的及び趣旨に賛同し、本会の事業を積極的に支援する個人または団体。役員選挙権・被選挙権をもたない。

会員種別	年会費	入会金	合計金額	役員選挙権 被選挙権	学会誌送付等		
					学会誌・論文集	ニューズレター	メールマガジン
正会員	6,000円	1,000円	7,000円	○	○	○	○
学生会員	4,000円	1,000円	5,000円	○	○	○	○
市民会員	1,000円	1,000円	2,000円	×	×	○	○
子ども会員	無料	300円	300円	×	×	○	○
賛助会員	10,000円	無料	10,000円	×	○	○	○

【入会手続き】

1. 入会申込書を事務局までファックスしていただき、下記振込先に入会金及び年会費を振り込んでください。申込受付確認後、事務局より連絡申し上げます。
2. 名前(フリガナ)
会員の種別(正会員 学生会員 市民会員 子ども会員 賛助会員)
自宅の住所・電話番号・FAX番号・e-mail
所属先名
所属先の住所・電話番号・FAX番号・e-mailをご記入の上、FAXにてお申し込みください。入会申込書は、下記URLから取得することができます。(<http://www.jsis.jp/admission.html>)
3. 送り先:兵庫教育大学大学院 溝邊研究室
〒673-1494 兵庫県加東市下久米 942-1 電話/Fax 0795-44-2197
3. 申込後、事務局からの確認連絡がない場合、ご一報ください。
4. 日本世代間交流協会会員は、年会費 2,000円、入会金 1,000円とします。

振込先 (株)ゆうちょ銀行 記号:14340 番号:93545151
名称 ニホンセダイカンコウリュウガツカイ ※ 他の金融機関からの振込受取口座として利用意される際は、次の内容をご指定ください。店名:四三八 店番:438 預金種目:普通預金 口座番号:9354515

日本世代間交流学会の学会誌 (第1巻第1号)が発行されました。

日本世代間交流学会の初めての学会誌が、この度発行されました。「挨拶」、「発刊に寄せて」、「展望論文1編、研究論文10編」他が掲載されています。購入ご希望の方は、学会事務局(兵庫教育大学大学院 溝邊研究室、電話/Fax 0795-44-2197)まで、ご連絡下さい。

2010年12月出版の関連書籍の紹介

新刊『世代間交流学の創造—無縁社会から多世代間交流型社会実現のために』草野篤子(編集委員長)・柿沼幸雄・金田利子・藤原佳典・間野百子 編著、あけび書房、2010年12月10日発行、ISBN:978-4-87154-097-1 C3036

<<書評>>花田昌宣、熊本学園大学社会福祉学部教授

この書を通してあらためて世代間交流をいかなければならない時代に来たということを教えらる。欧州の多文化社会における「世代間交流」という視点と方法によってソーシャルキャピタル概念を彫琢し、社会的排除と疎外からの回復の道という問題関心は共感をそそる。多彩な著者による新たな研究プログラムの最初の成果である。

諸連絡

第12回 日本子ども家庭福祉学会全国大会開催のお知らせ

テーマ: 格差・貧困と子ども家庭福祉

日程: 2011年6月4日(土)～5日(日)

会場: 熊本学園大学

学会参加・大会参加は、会員・非会員・学生にかかわらず、どなたでもご参加いただけます。

大会長: 伊藤良高

大会事務局: 山西裕美(事務局長)、出川聖尚子、宮里六郎、吉津晶子、宮崎由紀子

〒862-8680 熊本市大江2丁目5番1号 熊本学園大学社会福祉学部子ども家庭福祉学科

日本世代間交流学会の概要 (2011年2月4日現在)

<会員数>

総数 106名 (正会員: 76名、市民会員: 12名、学生会員: 6名、海外正会員: 12名)

<学会誌>

日本世代間交流学会は年1回、学会誌を発行いたします。投稿規定および執筆要領に従い、論文を作成ください。論文提出の際には、投稿登録用紙および著作権譲渡同意書を添付し、学会誌編集委員会宛に郵送ください。

<組織構成>

会長: 草野篤子 白梅学園大学教授

副会長: 金田利子 同朋大学教授、栗山昭子 芦屋大学教授、藤原佳典 東京都健康長寿医療センター研究所研究副部長、溝邊和成 兵庫教育大学大学院教授

顧問: 汐見聡幸 白梅学園大学学長、樋口恵子 評論家(東京家政大学名誉教授)、広井良典 千葉大学教授、堀尾輝久 東京大学名誉教授(元日本教育学会会長)、湯沢雅彦 お茶の水女子大学名誉教授、マット・カプラン 米国ペンシルバニア州立大学教授、サリー・ニューマン 米国ピッツバーグ大学名誉教授、JIR 共同編集長、ナンシー・ヘンケン 米国テンプル大学世代間学習センター所長、マリアーノ・サンチェス スペイングラナダ大学教授、JIR 共同編集長

理事: 石丸信明 建築家 アークスコーペー一級建築士事務所代表、市川禮子 社会福祉法人きらく苑理事長、内田勇人 兵庫県立大学准教授、倉科勇三 園田学園女子大学短期大学部教授、栗山直子 追手門学院大学准教授、小笹奨 川崎市立小学校教諭、小島純子 NPO法人ウエルフェア中之島代表、小机信行 韓国西原大学 Bio Organic Material & Food 研究所諮問委員、杉啓以子 社会福祉法人江東園事務局長、多湖光宗 医療法人ウエルネスグループ理事長、西本望 武庫川女子大学大学院教授、福島富士子 国立保健医療科学院公衆衛生看護部室長、宮里和子 武蔵野大学教授、山田和廣 芦屋市教育委員会、吉津晶子 熊本学園大学准教授

監事: 山本玲子 尚綱学院大学教授、上野義治 NPO法人あしや市民活動センター理事長、林友紗 慶応義塾大学助教

<学会事務局>

兵庫教育大学大学院 溝邊和成 研究室

〒673-1494 兵庫県加東市下久米 942-1 電話/Fax 0795-44-2197

Tel : 096(364)5161(代表) Fax : 096(372)0702(共用)

e-mail : jscfw.kumamoto@kumagaku.ac.jp

会員動向 (2010.8~2011.3)

正会員・評議員の大盛幸子先生（芦屋女子短期大学）が、2010年12月27日に急逝されました。あまりにも突然の悲報に接し、悲しみにたえません。大盛先生は、第1回全国大会（芦屋大学）の準備委員として、初めての全国大会の開催にご尽力下さいました。ここに謹んで哀悼の意を表するとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

<編集後記> 厳しい寒さの冬がようやく終わり、春の息吹を感じる今日この頃でございますが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。本学会の最初のニューズレター（創刊号）をお届けいたします。至らない編集で申し訳ございません。本学会が、会員の皆様にとって素晴らしい学会になっていくことを願ってやみません。今後とも、何卒よろしくお願いいたします。（編集担当：HU）